

## 自他の生命を尊重する子どもを育てる性に関する学級活動の学習指導

体育科保健学習との関連を図った活動構成の工夫を通して

大野城市立御笠の森小学校

教諭 新田 聖

こんな手立てによって…

①「肯定性」「発展性」「適時性」の3観点からの教材の開発  
②体育科保健学習との関連を図った活動構成の工夫と活動に応じた具体的な支援

こんな成果があった！

自分の生命のありがたさや自分を取り巻く他者の生命の尊さを実感し、違いを認め合いながらともに生きようとする実践意欲をもつ子どもを育てることができた。

### 1 考えた

私は、以前第5学年を担当した際、思春期の体の成長や異性への関心など、性に関するデリケートな問題でからかいが起こり、個別指導をしたことがあった。このような人間として当たり前の生理現象で子どもが傷つけ合う前に、自他の生命の尊さを改めて実感させる学習をするべきだったと反省している。そこで、「望ましい人間関係の形成」を目標に掲げている学級活動において、自他の生命を大切に感じ、ともに生きようとする子どもを育てていきたいと考えた。そのために、望ましい保健行動へとつながる実践的な知識を身につける体育科保健学習との関連を図ることで、一人一人が身につけた知識をさらに生きて働く実践的なものにしていくことが重要であると考えた。そこで、本研究主題を設定し、研究に取り組むこととした。

### 2 やって見た

自他の生命を尊重する子どもを育てるために、2点に着目した。1点目は、「肯定性(不安や悩みを前向きにとらえることができるように)」「発展性(今後起こりうる心や体の成長に伴う不安や悩みを想定できるように)」「適時性(今の自分(たち)の現状を見つめ、切実感をもつことができるように)」の3観点から教材化を図ったことである。2点目は、1単位時間の活動構成を「つかむ」「見通す」「深める」「まとめる」で構成し、「見通す」段階に、保健の既習内容を整理する活動を、「深める」段階に、整理した既習内容を思春期の悩み事例において活用する活動を位置づけ、各段階において具体的な支援を行ったことである。【実践Ⅰ】第5学年「大人に近づくわたしたち」では、主に身体的な成長の悩みに焦点を当てて、【実践Ⅱ】第5学年「不安や悩みの解決に向けて」では、主に精神的な成長の悩みに焦点を当てて実践に取り組んだ。

### 3 成果があった！

3観点から教材化を図ったことで子どもが切実感をもち、今後起こりうる場面を想定しながら、思春期の心や体の成長に関する不安や悩みと肯定的に向き合うことができた。また、体育科保健学習との関連を図った活動構成の工夫と具体的支援を位置づけたことで、保健の既習内容を必要感をもって活用しながら悩み事例の解決に向けて主体的に活動することができた。以上、2つの手立てによって、自他の生命を尊重する子どもの姿に迫ることができた。

## 自他の生命を尊重する子どもを育てる性に関する学級活動の学習指導

体育科保健学習との関連を図った活動構成の工夫を通して

### 目 次

1	主題設定の理由	3
	(1) 現代社会の現状から	3
	(2) 子どもの実態とこれまでの指導上の反省から	3
	(3) 学級活動の目標・内容と性に関する指導の留意点から	4
2	主題の意味	4
	(1) 「自他の生命を尊重する子どもを育てる性に関する学級活動の学習指導」について	4
	(2) 「体育科保健学習との関連を図った活動構成の工夫を通して」について	5
3	研究の目標	6
4	研究の仮説	6
5	研究の構想	6
	(1) 自他の生命を尊重する教材を開発する	6
	(2) 学級活動に体育科保健学習を関連させた活動構成を行い、それぞれの段階での活動に応じた具体的な支援を行う	7
	(3) 仮説実証の方途	7
	(4) 研究構想図	8
6	研究の実際と考察	8
実践事例Ⅰ 題材名 第5学年 学級活動「大人に近づくわたしたち」(平成25年4月)		
	(1) 目標	8
	(2) 各段階における子どもの様子と具体的支援(着眼点Ⅱから)	8
	(3) 全体考察(着眼点Ⅰから)	13
実践事例Ⅱ 題材名 第5学年 学級活動「不安や悩みの解決に向けて」(平成25年12月)		
	(1) 目標	14
	(2) 各段階における子どもの様子と具体的支援(着眼点Ⅱから)	14
	(3) 全体考察(着眼点Ⅰから)	19
7	研究の成果と課題	20
	(1) 研究の成果	20
	(2) 研究の課題	20
<参考文献>		
		20

## 自他の生命を尊重する子どもを育てる性に関する学級活動の学習指導

体育科保健学習との関連を図った活動構成の工夫を通して

大野城市立御笠の森小学校

教諭 新田 聖

### 1 主題設定の理由

#### (1) 現代社会の現状から

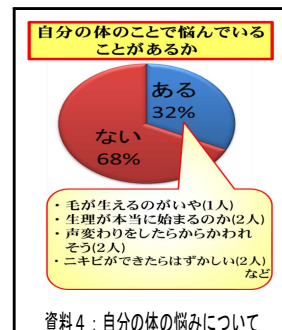
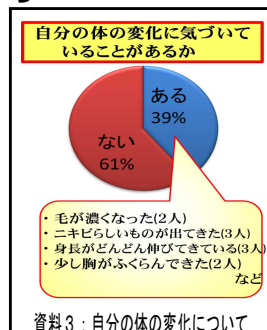
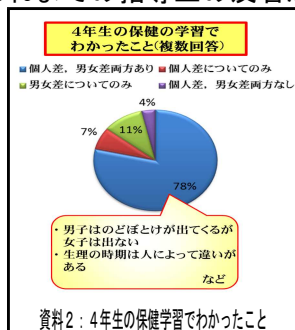
現在、性に関する意識や価値観の多様化により、望ましくない性情報の氾濫や性の商品化、性的成熟の低年齢化傾向等を背景に、性に関する規範意識の低下や性の逸脱行為とその低年齢化等、深刻な社会問題になっている。そんな中、全国では性犯罪の認知件数が毎年 8000 件以上報告されている。また、福岡県内でも一昨年は 517 件が報告されており、全国ワースト 4 位という憂慮すべき結果になっている。(資料 1) この背景には様々な要因があると思うが、根本はやはり、生命の尊さについての認識が不十分で、他者の生命を大切にできていない自分本位で身勝手な考え方が大きく影響していると感じる。そこで、私は、自分はもちろん、他者の生命を大切に感じ、他者とともに生きようとする子どもを育てていきたいと考え、本主題を設定した。

	性犯罪認知件数 (全国・福岡県、平成 20 年～平成 24 年)					
	全国			福岡県		
	性犯罪		強制わいせつ	性犯罪		強制わいせつ
強姦	強制わいせつ	強姦		強制わいせつ		
20 年	8,693	1,582	7,111	507	122	385
21 年	8,090	1,402	6,688	439	84	355
22 年	8,316	1,289	7,027	546	76	470
23 年	8,055	1,185	6,870	550	65	485
24 年	8,503	1,240	7,263	517	81	436

資料 1：性犯罪認知件数(資料：警視庁「犯罪統計」)

#### (2) 子どもの実態とこれまでの指導上の反省から

昨年度担任をした第 5 学年の子どもたちに、年度当初、性に関するアンケートをとり、その結果から、私は次のことをとらえた。



- 4 年生の保健学習で成長には個人差、男女差があると理解しながらも、まだ自分の成長に対して不安をもっていたり肯定的にとらえられていない現状がある。(資料 2, 4)
- 自分の体の成長に気づいている子どもが少しずつ出始めている。(資料 3)

また、以前に第 5 学年を担当した時の反省で、「毛が生えること」や「好きな人がいること」など性に関するデリケートな問題でからかいが起こり、指導をしたことがあった。このような人間として当たり前の生理現象で、子どもが傷つけ合ってしまう前に、自分や他者の生命の大切さを改めて実感させる学習をするべきだったと反省している。以上のことから、思春期の体と心の成長について実践的に理解させながら自他の生命を大切に実践意欲を育む性に関する指導は急務であると考え、本主題を設定した。

### (3) 学級活動の目標・内容と性に関する指導の留意点から

学級活動は、「望ましい人間関係」の形成が目標の中に掲げられている。「望ましい人間関係」について、学習指導要領解説特別活動編P32には「楽しく豊かな学級づくりのために、互いに尊重しよさを認め合えるような人間関係」と記されている。また、指導計画の作成、内容の取り扱いについては、資料5、6のような記述がある。教科間の関連を図ることや内容間の統合を図る等、効果的な指導の展開が図られるよう示されている。さらに、文部科学省「生きる力」を育む小学校保健教育の手引きには、性に関する指導の留意点について資料7のように記されている。つまり、特別活動においては、自他の生命を尊重し、望ましい人間関係を形成することの重要性や教科間を関連させることの必要性が示されていると考える。これらのことから、私は性に関する指導の在り方について以下のように考えた。

(2)各教科、道徳、外国語活動及び総合的な学習の時間などの指導との関連を図る学級活動の指導計画を作成するに当たっては、各教科等で身に付けた能力などを学級活動における楽しく豊かな学級や学校の生活づくりや健全な生活態度を育成する活動においてよりよく活用できるようにすることが大切である。また、学級活動で取り扱う内容について各教科等の学習内容との関連を図って指導の効果を高めたり、各教科等の学習内容との関連を踏まえて学級活動の指導内容を重点化したたりすることも考えられる。(後略)  
(学習指導要領解説特別活動編P42より抜粋 下線は新田による)

資料5：教科間の関連について

(2)必要に応じて内容間の関連や統合を図ったり、他の内容を加えたりすることができる学級活動については、必要に応じて、内容間の関連や統合を図ったり他の内容を加えたりすることができる。具体的には、効果的な展開ができると考えられる場合、「(1)学級や学校の生活づくり」や「(2)日常生活や学習への適応及び健康安全」の共通事項について関連を図って指導したり、「(2)日常生活や学習への適応及び健康安全」について、共通事項の統合を図ったり、共通事項以外の他の内容を加えて指導をすることができることである。(後略)  
(学習指導要領解説特別活動編P58より抜粋 下線は新田による)

資料6：内容間の統合について

○性に関する指導の留意点  
(前略)近年、性情報の氾濫など、子どもたちを取り巻く社会環境が大きく変化してきており、子どもたちが性に関して適切に理解し、行動することができるようにすることが課題となっていることから、小学校においては、体の発育・発達や心身の健康などに関する知識について体育科保健領域を中心に確実に身に付けることを重視するとともに、特別活動等で生命の尊重や自己及び他者の個性を尊重するとともに、相手を思いやり、望ましい人間関係を構築することなどを重視し、これらを関連付けて指導することに留意する必要がある。(後略)  
(文部科学省「生きる力」を育む小学校保健教育の手引き 平成25年3月 P32より抜粋 下線は新田による)

資料7：性に関する指導の留意点

- 自分や他者の生命を尊重し、ともに生きていこうとする子どもを育成することが大切であること
- 指導にあたっては、体育科保健領域や道徳、特別活動等、教科間の関連を図ること
- 学級活動における性に関する指導は、内容間の統合を図り、(2)日常生活や学習への適応及び健康安全の「ウ 望ましい人間関係の形成」、「カ 心身ともの健康で安全な生活態度の育成」の両面から指導をしていくこと

このことは、本研究主題、副主題と関連し、意義深いものであると考える。

## 2 主題、副主題の意味

### (1) 「自他の生命を尊重する子どもを育てる性に関する学級活動の学習指導」について

「自他の生命を尊重する子ども」とは、自分の生命のありがたさや自分を取り巻く他者の生命の尊さを実感し、違いを認め合いながら、ともに生きようとする実践意欲が旺盛な子どものことである。

近年、自尊感情の低下や他者軽視が若者の傾向として認められている。様々な不安や悩みから自分を傷つけ、他人を傷つけるニュースが後を絶たない。そんな危機的な現状の中、自己の存在を肯定的にとらえ、他者の存在を身近に感じることができる子どもの育成は急務であると考えられる。そのために、「人格の完成・豊かな人間形成」を目指す学校教育においては、自分や他者を大切にする「性に関する指導」の意義を認識し、生命尊重・人間尊重、男女平等の精神に



資料8：自他の生命を尊重する子ども

基づく望ましい異性観や人間関係を身につけさせることが大切である。そこで、その基盤をつくる小学校期においては、自分の生命をありがたく思うことはもちろん、他者の生命の大切さを実感し、お互いに違いを認め合いながら望ましい関係を築き、他者とともに生きようとする実践意欲をもった子どもを育成していくことが大切であるとする。(資料8)すなわち、本研究においては、以下の3つの子どもの姿をめざしていく。

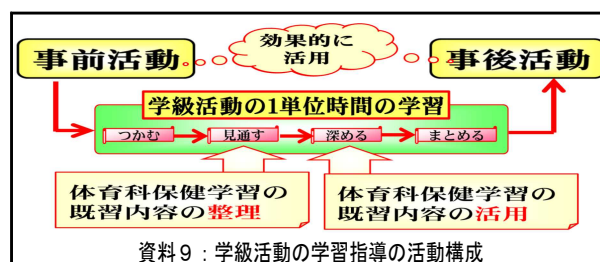
- <めざす子どもの姿>**
- A 自分の生命のありがたさを実感し、自分を大切に思う子ども
  - B 他者の生命の尊さを実感し、他者を大切に思う子ども
  - C 他者とともに生きようとする実践意欲が旺盛な子ども

以上のことから、「自他の生命を尊重する子どもを育てる性に関する学級活動の指導」とは、自分や他者を大切に思い、他者とともに生きようとする実践意欲が旺盛な子どもの育成をめざした、思春期の心と体に関する学級活動の学習指導のことである。

(2) 「体育科保健学習との関連を図った活動構成の工夫を通して」について

「体育科保健学習との関連を図った活動構成」とは、事前活動、事後活動を効果的に設定しながら、学級活動の1単位時間の活動を「つかむ」「見通す」「深める」「まとめる」の4段階で構成し、その「見通す」段階に体育科保健学習の既習内容を整理する活動を、「深める」段階に体育科保健学習の既習内容を活用する活動を位置づけることである。

体育科保健学習では、様々な学習活動の展開により、子どもたちは望ましい保健行動につながる実践的な知識を身につけていく。この知識をさらに生きて働く実践的なものにするとともに、自分や他者の存在の大切さを実感させ、他者とともに生きようとする実践意欲を身につけさせるためには、「望ましい人間関係の形成」「諸問題を解決しようとする自主的、実践的な態度」の育成を目標に掲げている学級活動との関連を図った指導が大切になる。



資料9：学級活動の学習指導の活動構成

各段階におけるねらい				
事前活動	学級活動の1単位時間の学習活動			事後活動
	つかむ	見通す	深める	まとめる
既習内容を想起させ、自分の実態や学級の状態を把握させて、課題をイメージさせる。	視覚化された実態から課題を把握し、めあてをつかませる。	体育科保健学習の既習内容を整理し、課題解決の見通しをもたせる。	整理した既習内容を活用させ、思春期の「悩み」の原因と「声かけ」の仕方についての考えを深める。	今後の自分の行動について自己決定させる。
		体育科保健学習を整理	体育科保健学習を活用	自己決定したことを実践させ、自己評価させる。

資料10：各段階におけるねらい

また、確実にめざす子どもの姿にせまるためには、段階的な指導の仕組みが必要であるとする。これらのことから、本研究では、学級活動の1単位時間の学習を、事前・事後指導を効果的に位置づけながら4段階で構成し、その「見通す」段階と「深める」段階に体育科保健学習の既習内容を整理し、活用していける仕組みをもたせた。(資料9)そして、資料10のような目的で学習活動を段階的に構成した。既習内容を整理する活動では、これまで学習してきた保健学習の内容を「深める」段階におけるケーススタディーで活用していくものに焦点化し、板書で提示する。また、既習内容を活用する活動では、「見通す」段階で提示された思春期の体や心に関する悩み事例について、①悩みの原因、②悩んでいる友達への声かけの仕方の2点から課題解決に向けて話し合いを行わせる。このことによって、子どもたちは、思春期の不安や悩みについての考えを深めることができると考える。

### 3 研究の目標

自他の生命を尊重する子どもの育成をめざし、第5学年の性に関する学級活動の学習指導において、体育科保健学習との関連を図った活動構成の在り方を究明していく。

### 4 研究の仮説

性に関する学級活動の学習指導「大人に近づくわたしたち」と「不安や悩みの解決に向けて」において、以下の2つの着眼点から体育科保健学習との関連を図った指導を積み上げれば、自分を大切に思う姿、他者を大切に思う姿、ともに生きようとする実践意欲が旺盛な姿が高まり、自他の生命を尊重する子どもの姿を具現化することができるであろう。

**着眼点Ⅰ** 自他の生命を尊重する子どもを育てる教材を開発する。

**着眼点Ⅱ** 学級活動に体育科保健学習を関連させた活動構成を行い、それぞれの段階での活動に応じた具体的な支援を行う。

### 5 研究の構想

#### (1) 自他の生命を尊重する子どもを育てる教材を開発する(着眼点Ⅰ)

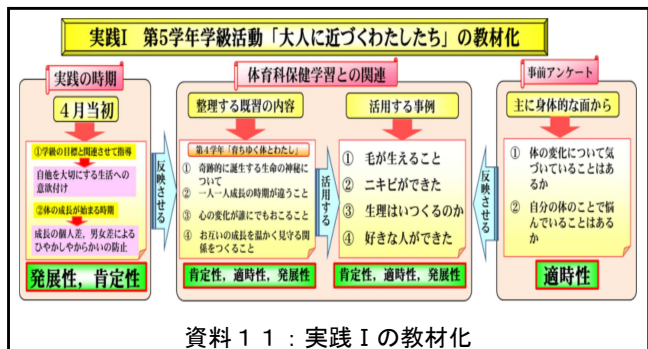
第5学年学級活動「大人に近づくわたしたち」「不安や悩みの解決に向けて」において、以下の3つの観点から教材化を行った。

**肯定性**：不安や悩みを前向きにとらえることができるように

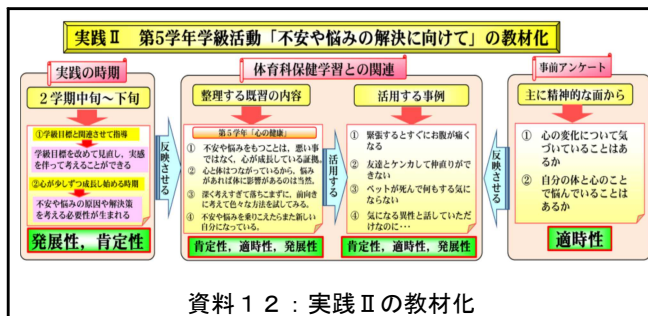
**発展性**：今後起こりうる心や体の成長に伴う不安や悩みを想定できるように

**適時性**：今の自分(たち)の現状を見つめ、切実感をもって考えることができるように

この3つの観点(肯定性、発展性、適時性)を考慮しながら教材化を図ることで、自他の生命を尊重する子どもに迫ることができる。実践Ⅰ「大人に近づくわたしたち」では、第4学年の保健学習「育ちゆく体とわたし」との関連を図る。主に身体的な面から事前アンケートを実施し(適時性)、4月の始めに実践することで、学級目標と関連させ、自他の生命を尊重する生活への意欲付けをしたり、身体的な面からのひやかしやからかいを防いだりすることができる。 (発展性、肯定性)



資料 1 1：実践Ⅰの教材化



資料 1 2：実践Ⅱの教材化

また、実践Ⅱ「不安や悩みの解決に向けて」では、第5学年の保健学習「心の健康」との関連を図る。主に精神的な面から事前アンケートを行い(適時性)、心が少しずつ成長し始める2学期の中旬から下旬に実践する。学級目標の1つ「絆を深める」をふり返るとともに、不安や悩みの原因や解決策を多面的に考える(肯定性)ことで、自分や他者の存在を肯定的にとらえ、今後不安や悩みが出てきたときの道標にする(発展性)ことができる。各実践における教材化の具体的な内容は資料1 1、1 2に示す通りである。

(2) 学級活動に体育科保健学習を関連させた活動構成を行い、それぞれの段階での活動に応じた具体的な支援を行う。(着眼点Ⅱ)

着眼点Ⅱに関しては、保健学習との関連を柱として、事前指導、4段階の学習指導、事後指導におけるそれぞれのねらいが達成できるように、資料13のような具体的支援を位置づけた。

段階	ねらい	具体的な支援
事前	既習内容を想起させ、自分の実態や学級の状況を把握させて、課題をイメージさせる。	①授業で取り上げる内容を知らせる。 ②掲示物で既習内容を想起させ、事前アンケートを行う。
つかむ	視覚化された実態から課題を把握し、めあてをつかませる。	③事前アンケート結果の実態に関する部分を掲示物で提示する。
見通す	体育科保健学習の既習内容を整理し、課題解決の見通しをもたせる。	④ある子どもの悩み事例(教師作成)を提示し、「悩みの原因」「声かけの仕方」「解決方法(実践Ⅱ)」について発問する。 ⑤養護教諭の既習内容についての話(実践Ⅰ)や教師の板書での既習内容提示(実践Ⅰ、Ⅱ)を行う。
深める	整理した既習内容を活用させ、思春期の「悩みの原因」と「声かけの仕方」についての考えを深めさせる。	⑥「悩みの原因」と「悩みを解決するためにどんな声かけをするか」の2点から思春期の悩み事例について話し合わせる。 ⑦全員共通の事例1で悩み解決のポイントを見い出させ(確認し)、グループ別の事例2でさらに考えを深めさせる。
まとめる	今後の自分の行動について自己決定させる。	⑧今後の自分の行動について「自分自身に対して」「友だちに対して」の2点からノートに記述させ、全体交流の中で発表させる。
事後	自己決定したことを実践させ、自己評価させる。	⑨実践したことを「自分自身や友だちを大切にしようカード」に記述させる。(1週間) ⑩成果と課題を自己評価させる。(朝の会)

資料13：活動構成と具体的支援

### (3) 仮説実証の方途

仮説の着眼点Ⅰ、Ⅱに照らし、次のような実証の方法を考えた。着眼点Ⅰの自他の生命を尊重する教材化の有効性については、資料14のようにして実証することとする。

着眼点Ⅱの学級活動に体育科保健学習を関連させた活動構成とその活動に応じた具体的支援の有効性については、資料15のようにして実証する。

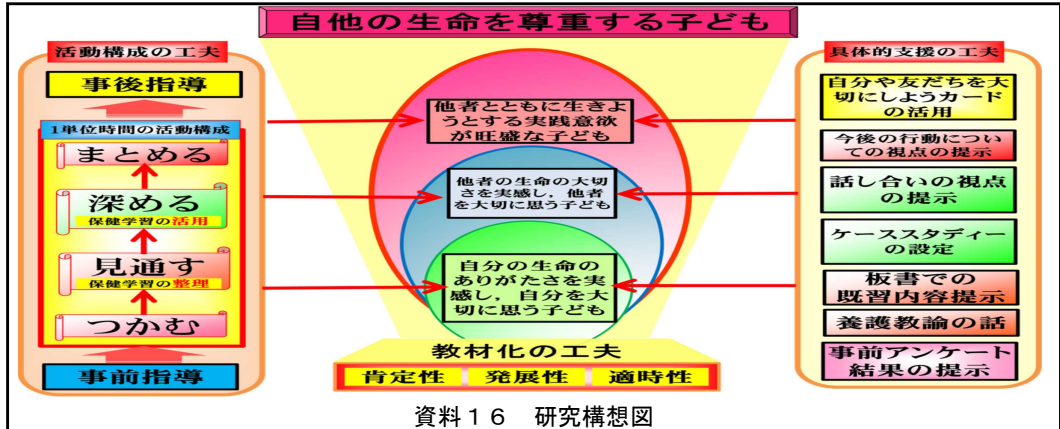
評価項目	評価内容	評価方法	評価の観点
指導の時期と指導内容の有効性	●教材化の観点は適切だったか。	①事前アンケートの記述内容を分析する。 ②事後アンケートの学習の効果の欄を分析する。	①「体の変化について」「悩みについて」の回答、切実感のある記述がどれだけあるか。 ②「学習できてよかったか」の問いの理由の内容に、教材化の観点の有効性を示す回答がどれだけあるか。
体育科保健学習との関連	●体育科保健学習との関連を図ったことは、自他の生命を尊重する子どもを育てる上で有効だったか。	○事後アンケートの感想の欄の記述内容を分析する。	○「自分の生命を大切に記述」「他者の生命を大切に記述」「ともに生きようとする実践意欲を高めた記述」のうち、整理した既習内容がどれだけ入っているか。
事前・事後の変容	●それぞれの実践後、自他の生命を尊重する姿は高まっているか。	○4件法による事前事後アンケートの結果のうち、自他の生命を尊重する姿の項目を分析する。	○「とてもそう思う」「そう思う」の割合がどれだけ変容しているか。

資料14：着眼点Ⅰの仮説実証方法

関連	段階	支援	評価内容	評価方法	評価の観点
事前・つかむ	① ② ③		●掲示物で既習内容を想起させた後、事前アンケートを行ったことは既習内容を想起させることにつながったか ●アンケート結果を掲示物で提示したことは共通の課題を伝えさせることにつながったか	①事後アンケートの既習内容の想起に関する内容を分析する。 ②事後アンケートの実態把握についての記述内容から分析する。	①掲示物提示前と提示後では想起した既習内容の数にどれだけの変化があるか。 ②自分や友達の悩みを解決しようとする内容の記述がどれだけあるか。
見通す	④ ⑤		●悩み事例を提示後、養護教諭の話や板書での内容提示を行ったことは、体育科保健学習の既習内容を整理させ、解決の見通しをもたせることにつながったか。	①見通す段階の学習ノートの記述内容から分析する。 ②事後アンケートの見通す段階についての記述内容から分析する。	①整理した既習内容のうち、いくつ内容が書かれているか。 ②整理した既習内容のうち、悩みを解決するために有効だと思った記述内容はどれだけあるか。
深める	⑥ ⑦		●解決のポイントを見出させ、「悩みの原因」と「声かけの仕方」の2点からケーススタディーを行わせたことは、体育科保健学習の既習内容を活用させることにつながったか。	①高める段階の学習ノートの記述数を集約する。 ②高める段階の学習ノートの記述内容を分析する。	①学習ノートの中に、原因と声かけについてどれだけ記述数があるか。 ②声かけの中に、既習内容を活用した記述があるか。また、どの内容を活用しているか。
まとめる・事後	⑧ ⑨ ⑩		●今後の考え方や行動について、「自分自身に対して」「友だちに対して」の2点から自己決定させたことや実践したことをカードに記入させたことは、ともに生きていこうとする実践意欲をもたせることにつながったか。	①学習ノートの自己決定した記述内容を分析する。 ②事後活動の「自分や友達を大切にしようカード」の記述内容を分析する。	①肯定的な考え方をすること、温かい関わり方をする内容に関する内容がどの程度記述されたか。 ②自他の存在を肯定的にとらえ、実践している記述がどれだけあるか。

資料15：着眼点Ⅱの仮説実証方法

(4) 研究構想図



資料16 研究構想図

6 研究の実際と考察

実践事例Ⅰ 題材名 第5学年 学級活動「大人に近づくわたしたち」(平成25年4月実施)

(1) 目標 ( \_\_\_\_\_ 集団活動や生活への関心・意欲・態度) ( \_\_\_\_\_ 集団の一員としての思考・判断・実践) ( \_\_\_\_\_ 集団活動や生活についての知識・理解)

- 悩み事例に自主的に取り組み、悩みの原因と声かけの仕方について考え、自分の生命のありがたさを感じながら、自分の成長を肯定的にとらえることができるようにする。 (めざす子ども像A)
- 思春期の心と体の成長に関心をもち、悩み事例の解決に向けて保健の学習内容を活用して話し合い、友達の成長を温かく見守りながら、友達の成長を肯定的にとらえることができるようにする。 (めざす子ども像B)
- 成長の個人差や男女差における悩み事例に関心をもち、友達とともに解決方法を話し合いながらともに生きていこうとすることの大切さをとらえることができるようにする。 (めざす子ども像C)

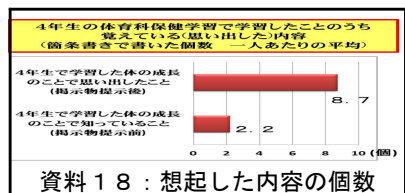
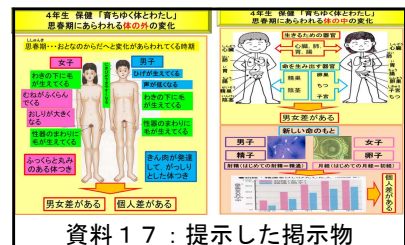
(2) 各段階における指導の実際と考察(着眼点Ⅱに関して)

① 事前指導・つかむ段階の子どもの姿と具体的支援

	事前指導	つかむ段階
ねらい	既習内容を想起させ、自分の実態や学級の状況を把握させ、課題をイメージさせる。	視覚化された実態から共通の課題を把握し、めあてをつかませる。
支援	①授業で取り上げる内容を知らせる。 ②掲示物で既習内容を想起させ、事前アンケートを行う。	事前アンケート結果の実態に関する部分を掲示物で提示

本時の1週間前に、朝の会で体と心についての学習をすることを伝えた。子どもたちは、それを聞くと4年生の時の保健の学習を思い出したようである。学習したことをアンケートに書かせると、「大人になったら毛が生える」など、部分的な知識について記入している子どもが多く見られた。その後、「育ちゆく体とわたし」の重点内容をまとめたものを、掲示物で提示した。(資料17)そして、掲示物を見て思い出したことをアンケートに付加させた。

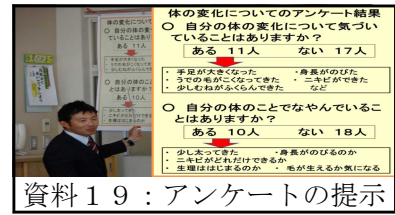
資料18は、アンケートの内容から、想起した内容の個





数をグラフ化したものである。掲示物で学習を想起することで、学習内容を思い出し、記述することができた。

つかむ段階では、事前アンケート結果の一部を提示した。(資料19)学級の3割以上が体の変化に気づき、体のことで悩みをもっていることが



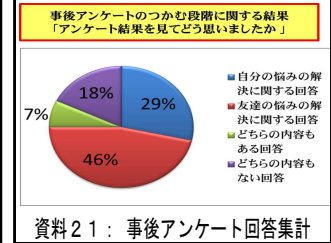
わかると、驚いた反応をしている子どもが多くいた。事後アンケートの中で、「アンケート結果を見てどう思ったか」という問いには、資料20のような回答があった。また、アンケートの回答内容を集約すると資料21のようになった。自分の悩みがまだないという子どもも、学級目標の1つである「絆を深める」という点から、友達の悩みを解決したいという意欲をもった子どももいた。このことから私は、事前指導とつかむ段階について以下のように考察する。

＜事後アンケートの回答から＞

○わたしは、ニキビが最近できたことに悩んでいました。でも、他にも体のことで悩んでいる友達がいると知って安心しました。悩みについて友達と考えるみたいと思いました。(自分の悩みの解決に関する回答)

○ぼくは、アンケートの結果を見て、悩んでいる友達が10人もいるのにびっくりしました。ぼくはまだ悩んでいないけど、悩んでいる友達の悩みを解決してもっと絆を深めるクラスにしたいと思いました。(友達の悩みの解決に関する回答)

資料20: つかむ段階について事後アンケートの結果



**【事前指導・「つかむ」段階についての考察】(着眼点Ⅱ〔具体的支援〕を中心に)**

事前指導として、「体と心の学習をする」ことを知らせ、掲示物(資料17)を提示して学習をふり返りながら事前アンケートを行ったことで、子どもたちは既習内容を想起しながら課題をイメージすることができた。また、つかむ段階で事前アンケートの内容の実態に関する部分を提示(資料19)したことで、資料20、21からわかるように、82%の子どもが自分の悩みや友達の悩みを解決していこうというという課題意識をもつことができた。このことから、事前指導とつかむ段階の有効性がうかがえる。

② 見通す段階の子どもの姿と具体的支援

ねらい	体育科保健学習の既習内容を整理し、課題解決の見通しをもたせる。
支援	①ある子どもの悩み事例(教師作成)を提示する。 ②養護教諭の専門性を生かした話や教師の板書での内容提示を行う。

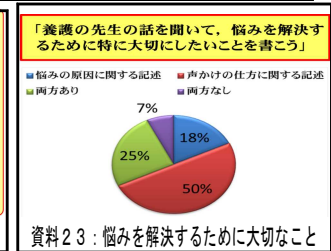
見通す段階では、まず、教師が教材化の観点(肯定性、発展性、適時性)から作成したある子どもの悩み事例を提示した。そして、子どもたちに「この子は、どうして悩んでしまったのかな?」「みんなだったらどんな声かけをする?」という2つの発問を問いかけた。

悩み事例の提示

友だちのなやみ1 「毛が生えること」

きゆう、プールのきげえのとき、女子の友達から「もえちゃん、わき毛がはえてる!」と大きな声で言われた。それを聞いた周りの友達が「うそーもうはえてるの?」「はやすぎやろ」と言い始めた。わたしは、はずかしくてその場にいるのがとてもつらかった。こんなはずかしい思いをするくらいなら、もう大人になんてなりたくない。

資料22: 悩み事例の提示



(資料22)子どもたちは、「周りの人がからかっているから悩んだ」など、周りの友達の関わり方を問題視する声が多かった。その後、この問題を解決するヒントは4年生の時に学習した保健の学習の中にあること、養護教諭の話をもとに学習したことを整理していくことを伝えた。また、養護教諭には、深める段階で活用させる内容を中心に話をしてもらい、それを板書に示すことで解決の見通しをもたせていった。(資料24上部)養護教諭の話後、子どもたちは、学習ノートの「ある子どもの悩みを解決するために特に大切にしたいと思ったことを書こう」の欄に、資料24下部のような感想を書いた。また、記述内容を集約

すると資料23のよう  
 になった。さらに、見通  
 す段階についての事後  
 アンケートの結果を集  
 約すると、資料25のよ  
 うになった。資料25  
 は、「養護の先生の話  
 を聞いて、悩みを解決す  
 るために大切にしたいこ

**養護教諭の話と整理した板書**

**話の内容**

- ① 精子と卵子が奇跡的に出会うことで、新しい命が生まれること
- ② 思春期の成長は、ホルモンの働きで起こる自然現象で、必ず誰にでも起こり、人によって成長の時期が違ってくる
- ③ 好きな人ができたり、成長に不安をもったりの変化は誰にでもあり、それは人間として当たり前のことであること
- ④ 自分や友達成長を喜べる自分になること大切であり、お互いの成長を温かく見守る関係をつくること

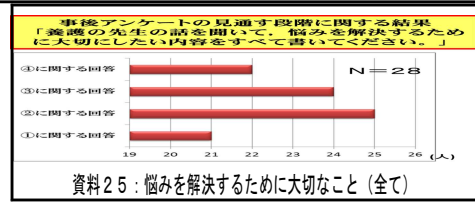
**養護教諭の話聞いた子どもの反応**

自分の成長や友だちの成長もよぶべきようにしたい  
 命は、それぞれにそれぞれ大切にしたい

田辺先生の話を聞いて「だれにでもあるから」自己化して「みんな」の中で思いました。

**資料24：見通す段階における支援と子どもの様子**

とを全て書こう」について記述式(複数回答可)で回答させたものである。以上の支援の内容と子どもの反応から、私は、見通す段階について以下のように考察した。



**【「見通す」段階についての考察】(着眼点Ⅱ【具体的支援】を中心に)**

資料23から、養護教諭の話の後に、93%の子どもが、「なぜ悩んでいるか」や「悩んでいる友達への声かけの仕方」に関連させた記述をしていたことがわかった。深める段階でのケーススタディをイメージしながら解決の見通しをもって養護教諭の話聞いていたことを示すものであると考える。このことから、悩み事例を養護教諭の話の前に提示し、考える内容を「悩みの原因」と「声かけの仕方」の2点に焦点化したことの有効性がうかがえる。また、資料25から、どの内容も70%以上の子どもたちが、整理した既習の内容が悩み事例を解決する際に大切なものとしてとらえていることがわかる。事前に掲示物で示した既習の体育科保健学習の重点内容をもとに、養護教諭の話焦点化して板書で示したことは、視覚的に内容をとらえさせることができたので、既習内容を整理する上で効果的だったと考える。以上のことから、見通す段階において、悩み事例を提示し、養護教諭の話板書で視覚化したことは、体育科保健学習の既習内容を整理し、課題解決の見通しをもたせる上で有効であったと考察する。

④ 深める段階の子どもの姿と具体的支援

<b>ねらい</b>	整理した既習内容を活用し、悩みの原因と声かけの仕方についての考えを深める。
<b>支援</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>①「悩みの原因」と「悩みを解決するためにどんな声かけをするか」の2点から思春期の悩み事例について話し合わせる。</li> <li>②全員共通の事例1でポイントを見出させ(確認させ)、グループ別の事例2でさらに考えを深めさせる。</li> </ol>

深める段階では、見通す段階で提示したある子どもの悩み事例についてグループごとに話し合う活動を資料26のように仕組んだ。悩みを解決するためには、なぜ悩むことになってしまったのか(原因)とそれを解決するためにはどうすればいいのか(解決方法)を考えさせる必要があると考える。そこで、話し合う際には、①悩みの原因となっていること、②悩みを解決するためにどんな声かけをするかを観点として設定した。まずは共通のテーマの悩み事例1「毛が生えること」(前傾資料20)では、悩みの原因と声かけの仕方につ



活用して記述したかを集約したものである。これらのことから、私は、深める段階について以下のように考察する。

【「深める」段階についての考察】（着眼点Ⅱ【具体的支援】を中心に）

資料30を見てみると、全員共通の事例1よりもグループ別の事例2の方が学習ノートの記述数が全体的に増えていることがわかる。全員共通の事例1で課題解決のポイントを見出し、その後グループ別の事例2に取り組んだことで、解決の道筋が見え、考えをさらに深めることにつながったことがうかがえる。また、資料31を見ると、事例2においては、93%の子どもが悩み事例の解決に向けて、体育科保健学習の既習内容を活用していることがわかる。このことは、見通す段階で整理した内容を活用させた深める段階の有効性を示すものであると考える。一方で、資料32に着目すると、整理した①と③についての既習内容を活用した子どもが少ないことがわかる。①については、生命そのものに対する内容であるため、悩みの解決に結びつけにくかったこと、③については心の面についての内容であるため、体の悩みについては活用しにくかったことが原因ではないかと考える。今後は、整理する既習内容について検討をする必要がある。

⑤ まとめる段階、事後指導の子どもの姿と具体的支援

	まとめる段階	事後指導
ねらい	今後の自分の行動について自己決定させる。	自己決定したことを実践させ、評価させる。
支援	今後の自分の行動について「自分自身に対して」「友達に対して」の2点からノートに記述させ、全体交流の中で発表させる。	①実践したことを「自分自身や友だちを大切にしようカード」に記述させる。(1週間) ②成果と課題を自己評価させる。(朝の会)

まとめる段階では、今後の自分自身の行動について「自分自身に対して」「友達に対して」の2点から自己決定したものをノートに書かせて発表させた。資料33、34は、自己決定したことを記述した子どもの学習ノートである。また、資料35は、自己決定した記述内容を集約したものである。資料33のように自分の成長について肯定的に考えていくこと、資料34のように友達の成長を温かく見守っていく関わり方をする

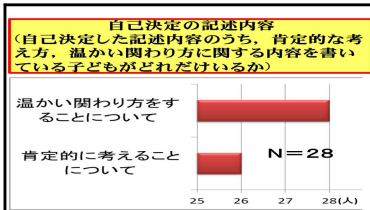
ぼくは、これからもし自分が早く成長しても「なんで早く成長するんだろう」となやまないようにする。そして、大人に近づいてうれしいというように、プラスに考えるようにしていきたい。

資料33：自分自身に対しての自己決定

人それぞれ成長の時期にちがうから、友達が自分より早く成長してもあたたかく見守りたい。そして、もしなやんでいたら少しでもなやみかかってくるように声をかけようようにしたい。

資料34：友達に対しての自己決定

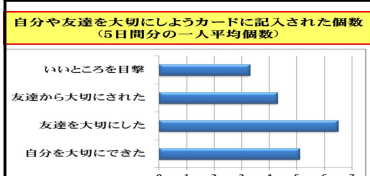
ことについてどれだけの子どもが記述しているかをまとめた。事後指導では、「自分や周りの友達を大切にしよう週間」を設定し、資料36のように4つの観点から毎日自由に記述させた。そして、朝の会の時間にそれを発表させることで、よさを全体に広げていった。資料37は、5日間の取り組みの中で、それぞれの項目にいくつの記述数があるかを示したものである。「いいところ



資料35：自己決定の記述内容

項目	記述内容
自分を大切に	算数の小数のかけ算がよくわからなかったけど、あきらめずに解いた。まちがっていただけで、自分の力でできてよかった。
友達を大切に	体育のマット運動の時間、Aちゃんに、「前立前転の足が伸びていたよ。だんだん上手になってるね。」と声をかけた。Aちゃんは喜んでくれた。
友達から大切に	体調があまりよくなかった。その時、Bちゃんが「大丈夫？元気がないね。保健室一緒に行こうか?」と声をかけた。
友達のいいところ	Mくんが、縦割り給食の時食べ終わっていない1年生に「あと少しやけんがんばろうね」と優しく声をかけてくれた。

資料36：事後活動の記録



資料37：事後活動の記録個数

るを目撃」に関する記述が若干少ないが、どの項目もほぼ毎日記入されていることがわかる。以上のことから、私は、まとめる段階と事後指導について以下のように考察する。

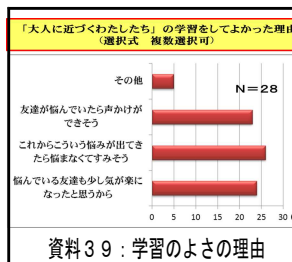
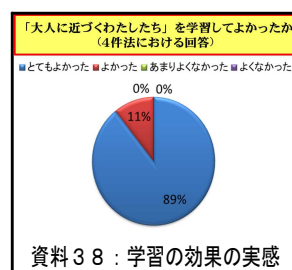
**【「まとめる」段階・事後指導についての考察】(着眼点Ⅱ【具体的支援】を中心に)**

資料35をみると、全員が資料34のように友達に対しての温かい関わり方をしようという実践意欲をもっていることがわかる。また、ほとんどの子どもたちが資料33のように悩みをプラスに考えるなど自分を肯定的にとらえようとしていることがうかがえる。このことから、「自分自身に対して」「友達に対して」から、学習したことを自己決定という形でノートに記したことは効果的だったと考える。また、資料36、37をみると、事後活動の中で自分や友達の多くのよさを記録している。自己決定したことをもとに、生活の中で、他者の存在のありがたさや自分の頑張りを見つめる時間を意図的に位置づけたことで、自他の生命を大切にする姿に近づくことができたかと考察する。

(3) 全体考察(着眼点Ⅰに関して)

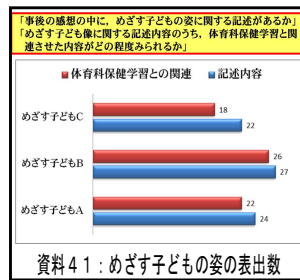
① 指導の時期と指導内容に関して

事前アンケート(前傾資料3, 4)から、39%の子どもが自分の体の変化に気づき、32%の子どもが体の成長に対して悩んでいることがわかった。また、事後アンケートで、「大人に近づいたわたし」の学習ができてよかったかの問いには、4件法の回答で「①とてもよかった」、「②よかった」のどちらかに全員が回答した。(資料38)その理由を複数回答で選択させると、資料39のようになった。「今悩んでいる友達の悩みを軽くできたから」「これからこういう場面がきたときに、悩まなくてすみそう」「友達が悩んでいたら声かけができそう」の回答が多数あり、その他の中にも「プラスに考えることができたから」「命がとても大切なことが改めてわかったから」などの記述があった。以上のことから、体の成長が出始めたこの時期に、自分たちの悩みと似た事例(適時性)やこれから起こりそうな事例(発展性)について考えることで、思春期の体の成長や悩みを肯定的にとらえができた(肯定性)本実践の有効性がうかがえる。



② 体育科保健学習の既習内容を関連させたことに関して

事後アンケートの結果から考察する。資料40は、実践後の子どもの感想である。この子どもの感想には、自分や他者の生命を大切に思い、ともに生きようとする本研究のめざす姿が表れている。資料41は、資料40のようなめざす子どもの姿が他の子どもたちの感想にどれだけ表れているか、また、めざす子どもの姿が表れた感想の中に、整理した既習内容がどれだけ入っているかを集約したものであ



資料40: 子どもの感想

整理した体育科保健学習の既習内容

A 自身の生命のありがたさを実感する姿

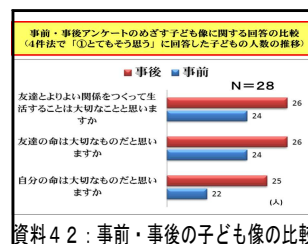
B 他者の生命の尊厳を実感する姿

C とともに生きようとする実践意欲が旺盛な姿

る。これを見ると、どの記述も高い数値を示すとともに、体育科保健学習と関連した内容もほぼ変わらない割合で入っていることがわかる。これは、子どもたちが関連させた既習内容を活用し、自他の生命のありがたさや尊さを感じながら、他者と望ましい人間関係を築き、ともに生きようとする実践意欲をもって生活をしようとしていることを示すものである。このことから、体育科保健学習との関連を図り、整理した既習内容を活用させて考えを深めさせたことは、自他の生命を尊重する子どもを育てる上で有効であった。

### ③事前・事後の変容から

最後に、事前・事後アンケートの結果から自他の生命を尊重する子どもの姿の高まりを考察する。資料42は、めざす姿に関する3つの問い（4件法）についての実践前と実践I後の回答を比較したものである。子どもたちは、どの問いにも「①とてもそう思う」「②そう思う」のどちらかに回答した。資料42を見ると、



「①とてもそう思う」の回答がどの設問も増えていることがわかる。このことは、自分や他者の存在を肯定的にとらえることの高まりを示すものであると考える。

以上の3点から、肯定性、発展性、適時性の観点から教材化を図ったことは自他の生命を尊重する子ども育てる上で有効であったと考える。

## 実践事例Ⅱ 題材名 第5学年 学級活動「不安や悩みの解決に向けて」（平成25年12月）

(1) 目標 ( \_\_\_\_\_ 集団活動や生活への関心・意欲・態度) ( \_\_\_\_\_ 集団の一員としての思考・判断・実践) ( \_\_\_\_\_ 集団活動や生活についての知識・理解)

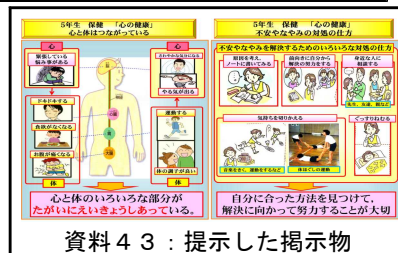
- 悩み事例に自主的に取り組み、悩みの原因と声かけの仕方について考え、不安や悩みと前向きに向き合いながら、自分の成長を肯定的にとらえることができるようにする。  
(めざす子ども像A)
- 思春期の心の成長に関心をもち、悩み事例の解決に向けて保健の学習内容を活用して話し合い、友達の不安や悩みに寄り添うことの大切さをとらえることができるようにする。  
(めざす子ども像B)
- 心と体の関係における悩み事例に関心をもち、友達とともに解決方法を話し合いながら、ともに生きていこうとすることの大切さをとらえることができるようにする。  
(めざす子ども像C)

### (2) 各段階における指導の実際と考察(着眼点Ⅱに関して)

#### ① 事前指導・つかむ段階

	事前指導	つかむ段階
ねらい	既習内容を想起させ、自分の実態や学級の状況を把握させて、課題をイメージさせる。	視覚化された実態から課題を把握させ、めあてをつかませる。
支援	掲示物で既習内容を想起させ、事前アンケートを行う。	事前アンケート結果を掲示物で提示する。

本時の1週間前に、朝の会で、「11月の保健の心の健康の学習をもとにして、4月の体についての学習のように、今度は心についての学習をする」ことを伝えた。覚えていることをアンケートに書かせると、「心と体はつながっている」「心は心臓ではなく脳にある」など憶を呼び



資料43：提示した掲示物

起こして記入していた。その後、「心の健康」の重点内容をまとめたものを、掲示物で提示した。(資料4 3)そして、掲示物を見て思い出したことをアンケートに付加させた。資料4 4から、掲示物で学習を想起したことで、既習内容を思い出すことができた子どもがいたことがわかる。

つかむ段階では、事前アンケート結果の実態に関する内容を提示した。(資料4 5)学級の18人が心の変化に気づき、7人の友達が心と体に関する事で悩みをもっていることをとらえることができた。さらにその内容に関して、事後アンケート

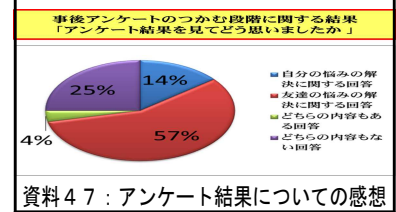
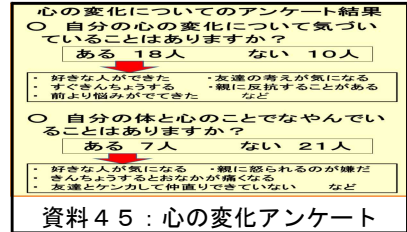
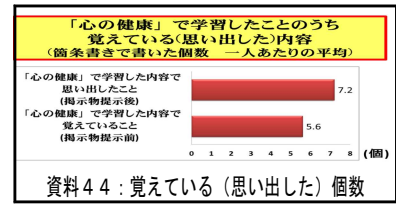
の中で、「アンケート結果を見てどう思いましたか」という問いには、資料4 6のような回答

＜事後アンケートの回答から＞

○ぼくは、この前友達とケンカして仲直りできていなかったで悩んでいた。保健で悩みを解決するための方法を勉強したので、どんな方法を使ったらいいかを考えてみたいと思った。(自分の悩みの解決に関する回答)

○ぼくは、アンケートの結果を見て、悩んでいる友達がいたのに驚いた。1学期に悩みはプラスに考えようと学習したからだ。でも、悩んでいる人がもう悩まないようにまた考えていきたいと思った。(友達の悩みの解決に関する回答)

資料4 6：つかむ段階について事後アンケートの結果



があった。また、アンケートの回答内容を集約すると資料4 7のようになった。このことから私は、以下のように考察する。

**【事前指導・「つかむ」段階についての考察】(着眼点Ⅱ〔具体的支援〕を中心に)**

事前指導として、「保健の学習をもとに、4月の体の学習のように今度は心の学習をする」ことを知らせ、掲示物(資料4 3)を提示して学習をふり返りながら事前アンケートを行ったことで、資料4 4のように、子どもたちは既習内容を想起しながら課題をイメージすることができた。また、つかむ段階で事前アンケートの内容の実態に関する部分を提示(資料4 5)したことで、資料4 6、4 7からわかるように、77%の子どもが自分の悩みや友達の悩みを解決していこうというという課題意識をもつことができた。しかし、どちらの内容もない25%の子どもの中には、「友達が悩んでいることがわかった」「もっとたくさんの人が悩んでいるかと思った」など、課題意識が高まっていない子どももいた。このことから、事前アンケートを提示する際に、学級目標を具体的に想起させるなどの工夫が必要であることがわかった。以上のことから事前指導とつかむ段階は概ね有効であったが課題も明らかになった。

② 見通す段階の子どもの姿と具体的支援

ねらい	体育科保健学習の既習内容整理し、課題解決の見通しをもたせる。
支援	ある子どもの悩み事例(教師作成)を提示し、既習内容を板書で整理する。

見通す段階では、まず、教師が教材化の観点(肯定性、発展性、適時性)から作成したある子どもの悩み事例「持久走」を提示した。(資料4 6)そして、子どもたちに、「悩みの原因は何か？」と問いかけた。子どもたちは、「マイナスな考えになっている」「友達が心ないことを言っている」など、実践Ⅰの学習を活かしたつぶやきがあった。

悩み事例の提示

友だちのなやみ1 「持久走」

悩みの原因は何か？ 昨日は、持久走大会だった。ぼくは、持久走にあまり自信がない。昨日の朝は、おなかの調子がよくなかった。だから、授業中、何回もトイレに行った。授業が終わった後、A君が、「お前、何回もトイレ行くなって、もしかしてきんちょうとさ？ ださっ。」と言われた。ぼくは、とても悲しい気持ちになった。この前のマツ運動の発表会のときもそう。ぼくは大事なときに何でこんなにすぐおなか痛くなるんだろう。こんな自分がはずかしい。

解決方法は？ いろんな声かけをした方がいいかな？

資料4 6：提示した悩み事例

次に、「悩みを解決するためには、どんな解決方法があったかな？」と問いかけた。子ども

私たちは、掲示物を見ながら、「原因をノートに書いて考えてみる」「身近な人に相談する」など、心の健康で学習した解決方法を思い出しながら発表した。そして、「悩みを解決するために、みんなだったらどんな声かけをするかな？」と発問した。子どもたちはそれぞれ、この悩みについて向き合おうと真剣に考えていた。その後、この問

整理した既習内容

① 不安や悩みをもつことは、悪い事ではなく、                    しよう。

②                     から、悩みがあれば体に影響があるのは当然。

③ 深く考えすぎて落ちこまずに、                    に考えて色々な解決方法を試してみる。

↓

④ 不安や悩みを乗り越えたら、もっと                    になっている。

第5学年「心の健康」

① 不安や悩みをもつことは、悪い事ではなく、心が成長している証拠。

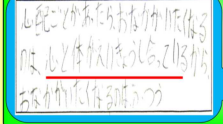

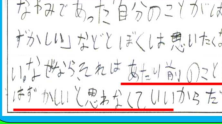
② 心と体はつながっているから、悩みがあれば体に影響があるのは当然。

③ 深く考えすぎて落ちこまずに、前向きに考えて色々な方法を試してみる。

・悩みを乗り越える方法を知る  
・悩みの原因を知る  
・悩みを乗り越える方法を知る  
・悩みを乗り越える方法を知る

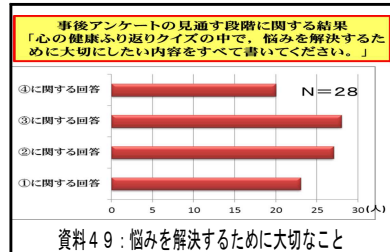
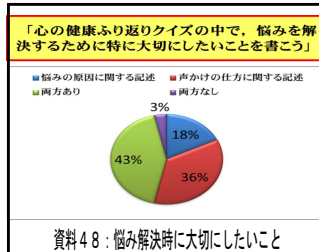
④ 不安や悩みを乗り越えたら、もっと成長した新しい自分になっている。

既習内容を整理した後の子どもの反応

資料47：整理した既習内容と子どもの反応

問題を解決するために、まずは「心の健康」の学習を整理して、体の学習と同じように悩みの原因と声かけの仕方を考えていくことを伝えた。次に、板書で、既習の内容を整理していった。1週間前の保健の学習で養護教諭に話をしてもらっていたため、本実践では、その内容を穴埋めクイズ形式でふり返りながら内容を整理した。



整理した内容は、資料47上部の通りである。既習内容の整理後、子どもたちは、学習ノートの「悩み1を解決するために特に大切にしたいと思ったことを書こう」の欄に、資料47下部のような内容を記述した。また、他の子どもの記述内容を集約すると資料48のようになった。さらに、見通す段階についての事後アンケートの結果を集約すると、資料49のようになった。どの内容についても概ね記入されていることがわかる。以上の支援と子どもの反応から、私は以下のように考察した。

【「見通す」段階についての考察】(着眼点Ⅱ【具体的支援】を中心に)

資料48から、クイズ形式でのふり返り後に、97%の子どものが、特に大切にしたいこととして、「なぜ悩んでいるか」や「悩んでいる友達への声かけの仕方」に関連させた記述をしていたことがわかった。深める段階でのケーススタディをイメージしながら解決の見通しをもったことを示すものである。このことから、クイズ形式でふり返る前に悩み事例を提示し、考える内容を「悩みの原因」と「声かけの仕方」に焦点化したことの有効性がうかがえる。また、資料49を見ると、どの内容についても80%以上の子どもが記述している。事前に掲示物で示した既習の体育科保健学習の重点内容をもとに、ケーススタディで活用できそうな内容を焦点化し、クイズ形式でふり返ることで、意欲的に既習内容をとらえさせることができたと考えられる。以上のことから、見通す段階において、悩み事例を提示し、既習内容を焦点化して板書で視覚化したことは、体育科保健学習の既習内容を整理し、課題解決の見通しをもたせる上で有効であったと考える。

④ 深める段階の子どもの姿と具体的支援

ねらい	整理した既習内容を活用させ、悩みの原因と声かけの仕方についての考えを深めさせる。
-----	--

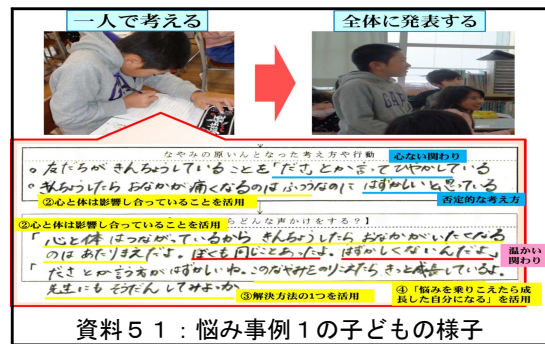
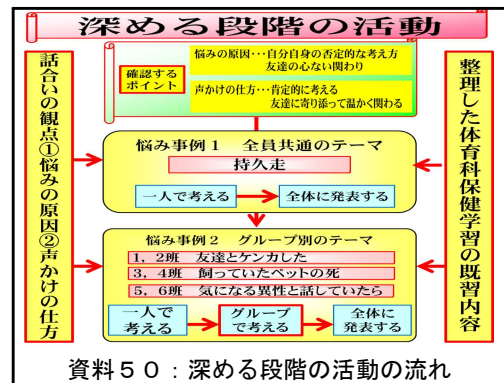


支援

- ①「悩みの原因」と「悩みを解決するためにどんな声かけをするか」の2点から思春期の悩み事例について話し合わせる。
- ②全員共通の事例1でポイントを確認し、グループ別の事例2でさらに考えを深めさせる。

深める段階では、見通す段階で提示したある子どもの悩み事例についてグループごとに話し合う活動を資料50のように仕組んだ。話し合う際には、実践Iと同じように、①悩みの原因となっていること、②悩みを解決するためにどんな声かけをするかを観点として設定した。まずは共通のテーマの悩み事例1「持久走」(前傾資料46)において、まずは自分で考えをつくり、それを発表し考えを深めていった。自分の考えをつくる前に、子どもたちに「悩みを解決するためのポイントを覚えているかな?」と発問した。すると、何人かの子どもたちが「プラスに考えること」「友達に温かく関わること」に関する内容をつぶやいた。それを拾い上げ、ポイントについて整理した。(資料50上部)資料51は、悩み事例1の際の子どもの様子である。実践Iの学習方法を思い出しながら「心の健康」の既習内容を活用したり、話し合いの観点を意識したりして自分の考えをつくり、全体に発表することができた。次に、グループ別のテーマで2つ目の

悩み事例の原因と解決方法を考えていった。(資料52)資料53は、悩み事例I「ケンカ」について話し合った子どもの様子である。「友達と一生仲直りができないかもしれない」「人に知られるのが嫌で相談できない」などの否定的な考え方や「周りの友達が悩んでいることを知りながらも解決の手助けをしない」という周りの友達の心ない関わり方を原因ととらえ、「まずは、なぜ悩んでいるのか原因を書いてみようか。」「悩みがある

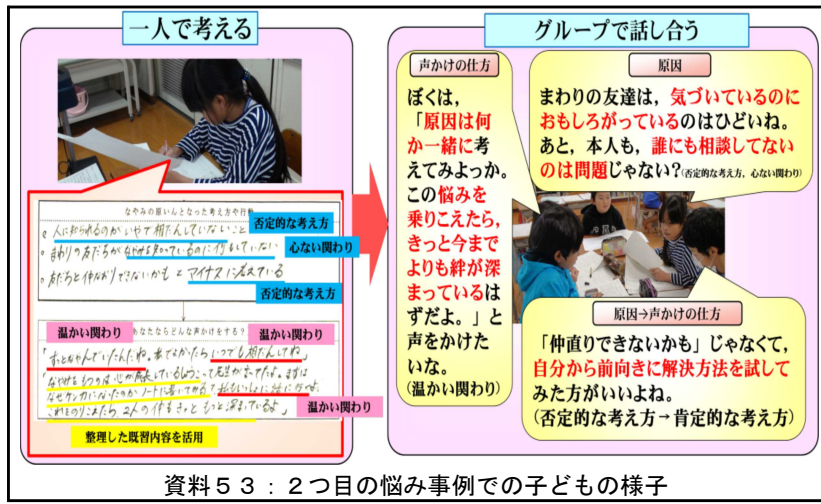


資料52：2つ目の悩み事例(グループ別)

友だちのなやみ2 「友達とケンカした」  
 わたしは、8ちゃんときさきなことケンカした。次の日も、そのまた次の日もおたが口をきかなかった。わたしはこのことを人に知られるのがいやで、誰にも相談しなかった。そのことを考えすぎて、夜なかなか寝れない。そのせいか、一日頭がぼんやりして勉強にも集中できない。この前友達か「もうAちゃんやBちゃんはそのままずっと絶交状態かもね。止まって話している声か聞きた。私結構だった。このまま8ちゃんとは一生仲直りできない気がしてきた。もどうしたらいいかわからない。

友だちのなやみ3 「ペットの死」  
 昨日、5年飼っていたペットの犬がなくなった。ぼくは、悲しくて涙が出てきた。家族もみんな泣いていた。今日学校に行っても全然元気が出なかった。食欲もなかった。ぼくは、そのことを誰にも話せなかった。給食時間、給食を減らして泣いてしまった。ぼくは、もっと悪い気持ちになった。ぼくはどうしたらいいかな。こんな生活がずっと続いたら嫌いだ。

友だちのなやみ4 「気になる異性と話していた」  
 わたしは、最近A君のことが気になる。この前A君と話をしていたら、男子の3人がこっちを見てそこで話を止めてしまった。わたしは気になって、「何話しよう?」とすると、「別に何でもいいやん。お前には関係ないから」と言ってきた。わたしは、きっと自分たちのことを言っているのだと思った。もっとA君と話したいのに、何だか悪い気持ちになる気がした。その後、そのことが気になって、何を食べる気しない。このモヤモヤした気持ちを晴らすにはどうしたらいいだろう。



ときは私でよかったらいつでも相談して。」「この悩みを乗り越えたらきっとまたお互い成長してるよ。」などの温かい声かけの仕方を考え、グループで交流することができた。最後に、グループごとに考えたことを全体に発表させることで、悩みを成長の機会ととらえ、身近な人に相談するなど色々な方法を使えば心が軽くなってどんな悩みでも解決できることをとらえることができた。学習ノートを見ると、悩み事例1、2ともに、全員が、声かけの中に資料5 3左部のような整理した既習内容を必ず1つは活用していることがわかった。また、資料5 4は、深める段階のうち、どの既習内容を活用して記述したかを集約したものである。どの内容についても、28人中20人を以上が整理した既習内容を活用し、自分なりの考えをつくっていたことがわかる。これらのことから、私は、以下のよう

**【「深める」段階についての考察】(着眼点Ⅱ【具体的支援】を中心に)**

悩み事例1、2ともに、全員が少なくとも1つは整理した既習内容を活用して資料5 3の子どものような記述をし、話合いに参加できたことや資料5 4のように、記述内容についての数値の高さから、既習の内容を活用させた深める段階の有効性がうかがえる。

⑤ まとめる段階、事後指導の子どもの姿と具体的支援

	まとめる段階	事後指導
ねらい	今後の自分の行動について自己決定させる。	自己決定したことを実践させ、評価させる。
支援	今後の自分の行動について「自分自身に対して」「友達に対して」の2点からノートに記述させ、全体交流の中で発表させる。	①実践したことを「自分自身や友だちを大切にしようカード」に記述させる。(1週間) ②成果と課題を評価させる。(朝の会)

まとめる段階では、これまでの活動をもとに今後の自分自身の行動について「自分自身に対して」、「友達に対して」の2点から自己決定したものをノートに書かせて発表させた。資料5 5、5 6は、自己決定したことを記述した子どもの学習ノートである。これからの自分自身の行動について、前向きに考えた

ぼくは、不安やなやみか出てきても、それを前向きに考える。不安や悩みは成長のあかしだから。そして、保健で学習しているやり方を覚えてみたい。この前、持走大会のときまきちゃんに教えてくれたけど、乗り越えたらまた自分が強くなれた気がした。不安やなやみを乗り越えたら新しい自分になれると知ったのでこれからの自分が楽しみです。

資料5 5：自分自身に対する自己決定

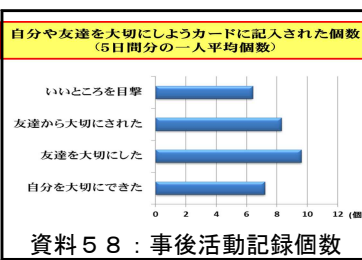
わたしは、不安やなやみをかかえてる人がいたら、わたしでよかったら話を聞かせたいし声をかけたい。そして、いろいろなやり方をいしょにたのびてみたいと思おう。友だちがなやんでると、わたしまで悲しい気持ちになる。だから、友だちによりよって心のなやみを解決してける人になると思う。

資料5 6：友達に対する自己決定

＜「自分や友達を大切にしようカード」から＞

項目	記述内容
自分を大切にできたこと	今日の朝、長縄の練習で、何回もひっかいたらどんどん上手になった。
友達を大切にできたこと	算数の「分数」で、Aちゃんが「わからない」と言っていたので、休み時間に自分の解き方をわかるまで教えた。
友達から大切にされたこと	昨日休んでいたら、みんなが一言ずつ手紙を書いてくれた。早く学校に行きたくなくなった。いい友達をもったなと思った。
友達のいいところを見つけ!	Bくんが2組のCくんとケンカしていたけど、後で自分からあやまりに行っていた。解決の努力をしていてえらいと思った。

資料5 7：事後活動の記録



り、友達に温かく関わったりしながら不安や悩みとつきあい、解決しながら生活をしていこうとする実践意欲が表れている。他の子どもたちの自己決定の欄には、どの子どもの記述内容にも「前向きな考え方」「友達との温かい関わり」が記されていた。事後指導では、実践Iと同様、4つの観点から5日間毎日、自由に記述させた。(資料5 7)そして、朝の会の時間にそれを発表させることで、よさを全体に広げていった。資料5 8は、5日間の取り組みの中で、それぞれの項目にいくつの記述数があるかを集約したものである。どの項目も、平均してほぼ毎日記入されていることがわかる。以上のことから、私は、まとめ

る段階と事後指導について以下のように考察する。

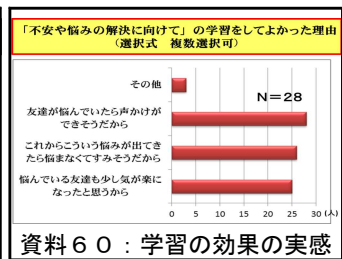
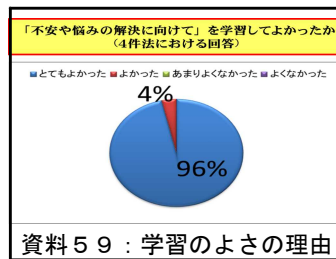
【「まとめる」段階・事後指導の考察】(着眼点Ⅱ〔具体的支援〕を中心に)

資料55, 56の自己決定の記述には、悩みを否定的にとらえず、前向きにとらえようとする姿、友達に寄り添い、温かく関わろうとする姿が表れている。このような「前向きな考え方」「友達との温かい関わり」についての記述内容がどの子どもの自己決定にも表れていることから、「自分自身に対して」「友達に対して」の2点から、学習したことを自己決定という形で記したことの有効性がうかがえる。また、資料57, 58からわかるように、事後活動の中で子どもたちはたくさんの自分のよさや友達のよさを記録している。自己決定したことをもとに、生活において、他者の存在のありがたさや自分のがんばりを見つめる時間を意図的に位置づけたことで、不安や悩みを前向きにとらえ、友達とともに解決していこうとする実践意欲の表れをみることができたと考える。

(3) 全体考察(着眼点Ⅰに関して)

① 指導の時期と指導内容に関して

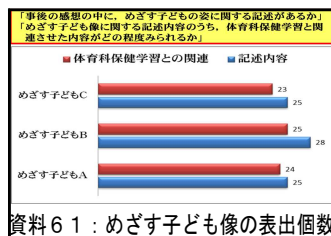
事後アンケートで、「不安や悩みの解決に向けて」の学習ができてよかったかの問いには、4件法の回答で「①とてもよかった」、「②よかった」のどちらかに全員が回答した。(資料59)その理由を複数回答で選択させると、資料60のようになった。特に、「友達が悩んでいたら声かけができそう」については全員が選択していた。以上のことから、肯定性、発展性、適時性の3観点から教材化したことの有効性がうかがえる。



「友達が悩んでいたら声かけができそう」については全員が選択していた。以上のことから、肯定性、発展性、適時性の3観点から教材化したことの有効性がうかがえる。

② 体育科保健学習の既習内容を関連させたことに関して

事後アンケートの結果から考察する。資料60は、実践後の子どもの感想である。この子どもの感想には、自分や他者の存在を大切に思い、ともに生きようとする本研究のめざす姿が表れている。資料61は、資料60のようなめざす子どもの姿が他の子どもたちの感想にどれだけ表れているか、また、めざす子どもの姿が表れた感想の中に、整理した既習内容がどれだけ入っているかを集約したものである。



整理した体育科保健学習の既習内容

A 自分を大切に思う姿

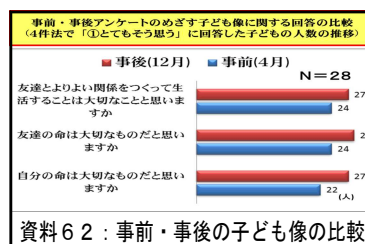
B 他者を大切に思う姿

C ともに生きようとする実践意欲が旺盛な姿

これを見ると、記述した自他の生命を尊重する姿は、ほとんどが、整理し活用した既習の保健学習の内容と関連していることがわかる。これは、体育科保健学習との関連を図り、整理した既習内容を学級活動の学習で活用させて考えを深めさせたことが、自他の生命を尊重する子どもを育てる上で有効だったことを示すものであると考察する。

### ③事前・事後の変容から

最後に、自他の生命を尊重する子どもの姿の高まりについて考察する。資料6 2は、これまでに行っためざす姿についての3つの問いについて、実践前と実践Ⅱ後の回答を比較したものである。どの問いについても「①とともそう思う」「②そう思う」のいずれかの回答であった。資料6 2をみると、



実践後は、「とともそう思う」と回答した子どもが増えていることがわかる。このことは、自分や他者の存在を肯定的にとらえることの高まりを示すものであると考える。

以上の3点から、肯定性、発展性、適時性の観点から教材化を図ったことは自他の生命を尊重する子ども育てる上で有効であったと考える。

## 7 研究の成果と課題

### (1) 研究の成果

#### ○ 自他の生命を尊重する子どもを育てる教材化について(着眼点Ⅰから)

第5学年の性に関する学級活動において、肯定性、発展性、適時性の3点から教材化を行ったことは、子どもたちが切実感をもち、今後起こりうる場面を想定しながら、思春期における心や体の成長に関する不安や悩みと肯定的に向き合うことができたので、自他の生命を尊重する子どもを育てる上で有効であることがわかった。

#### ○ 学級活動に体育科保健学習を関連させた活動構成と具体的な支援について(着眼点Ⅱから)

学級活動の事前・事後指導を効果的に位置づけながら、学級活動の1単位時間の活動を「つかむ」「見通す」「深める」「まとめる」の4段階で構成し、「見通す」段階に、体育科保健学習の既習内容を整理する活動を、「深める」段階に、整理した内容を活用させ、実態に合った悩み事例について話し合わせる活動を設定したことで、保健学習の既習内容を必要感をもって活用しながら不安や悩みの解決に向けて主体的に活動し、自他の生命の大切さを実感しながらともに生きていこうとする実践意欲をもたせることができた。

### (2) 研究の課題

- 自他の生命を尊重する子どもを効果的に育てるための教材について、「自分たちの生活に関係しているから解決したい」という切実感のある課題意識をいかに高くもたせるか、またこれまで積み上げてきた財産である多くの既習内容をいかに活用させるかが鍵となる。実践Ⅰに関しては、整理していく既習内容と事例の適合性について、また、実践Ⅱに関しては、課題を把握させる上での手立てについて再検討する必要がある。
- 性に関する指導については、特別活動と体育科保健学習との関連だけではない。道徳や理科、総合的な学習の時間など、それぞれの特徴を生かしながら関連を図り、指導計画に反映させていくことが必要であると考え。また、学校だけでなく、家庭や地域との連携を図った取り組みも視野に入れながら実践を積み上げていきたい。

### <参考文献>

- ・「生きる力」を育む小学校保健教育の手引き 文部科学省 平成25年3月
- ・「小学校学習指導要領解説 特別活動編」 文部科学省 平成20年
- ・「いのちとこころに向き合う性教育(小学校)」 東山書房 岡山市小学校保健部会編著 平成23年